学校だより　練馬区立大泉学園中学校

発行日　平成２９年　２月２８日（火）２月号
発行人　校　長　桐野　和之

ならぬことはならぬものです

校長　桐野　和之

江戸時代に会津藩と呼ばれている地域がありました。今で言うと、福島県に位置するあたりです。会津藩では、１０歳になると日新館という、現在の学校のようなところに入って学問や武芸を習う事になっていました。まだ、日新館には入れない６歳から９歳くらいの小さな子どもたちは、自分たちの町に子どもたちだけで集まりをつくっていました。その集まりの事を什（じゅう）と言ったそうです。

什というのは、１０人組とか１０軒の組という意味がありますが、１０人ぐらいの子どもが集まった遊び仲間のようなものと考えると、たぶんわかりやすいのではないかと思います。会津藩の子どもたちは皆、町ごとにつくっている「什」に必ず入らなければなりませんでした。

さて、什ではどのような事をしていたかというと、まず、一番年上の者が什長（じゅうちょう）になり、什長は午後の集団遊びの前に、お話しをする事になっていたそうです。そのお話の内容は、

一、年長者の言う事には背いてはなりませぬ
一、年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ
一、うそを言う事はなりませぬ
一、卑怯なふるまいはしてはなりませぬ
一、弱い者はいじめてはなりませぬ
一、戸外でものは食べてはなりませぬ

というような内容で、どの町の「什の掟」も必ず最後は「ならぬことはならぬものです」という言葉で締めくくられていたそうです。そして、この「什の掟」を守らなかった場合は、親とともに仲間にお詫びをしなければならなかったそうです。たとえお詫びをしても、改心した様子が見られない場合は、「ならぬことはならぬものです」とけっして許してもらえなかったということです。「ならぬことはならぬものです」という言葉には、人として生きるためには、理屈や言い訳が通らない絶対にやってはいけないことがあるという意味が込められています。礼儀がないこと、うそをつくこと、弱い者いじめをすることなどは、人間として恥ずかしいことだと戒められていたのです。会津藩の子どもたちは、「什の掟」を大人から言われてつくったのではありません。子どもたちで掟をつくって実行していたのです。ところで、皆さんは、物事を判断したり、行動したりする時、自分の基準をもっていますか。会津藩の子どもたちのように、「嘘をつかない」という基準をもっている人もいることでしょう。あるいは、「自分がされて嫌なことは人に決してしない」という基準をもっている人もいるかもしれません。基準はその人によってまちまちです。けれども、何よりも大切なことは、自分の基準が周囲の人を楽しく幸せな気持ちにし、自分をも高めるような基準になっているかどうかということです。そのような基準を皆さん一人ひとりがしっかりともち、その基準を破りそうになった時は、「ならぬことはならぬものです」と自分自身を押さえられるようになることが、とても大切です。皆さんはこれから多くの人とかかわりながら生きていきます。ですから、いつも物事が自分の思うとおりにいくとは限りません。どのような時であっても、周囲の人のことを考え、我慢すべきときは我慢し、友達と心を通わせながら楽しい日々を過ごしてほしいと思います。

日常の授業⑤

今月は少し古い話題になりますが、紹介していなかった年明け直後の１月１２日、第３校時に体育館で行われていた３年生男子のバレーボールの授業を紹介します。

授業が始まる前にまずは準備運動を行って体をほぐしました。冬休み明けの久々の授業を前に担当の武田先生より、お正月にどのようなスポーツを観戦したか問いかけられました。箱根駅伝、高校サッカー等が生徒より応えられました。先生からは高校のバレーボールの全国選手権があったことが話題にされ、話はバレーボールの話題に移っていきました。

この日は体育館が少しいつもより冷えていたので、この後体を温めるために馬跳びが準備運動として追加されました。

この日の授業の目標はスパイクを打つ練習です。スパイクを打つ練習に入る前に、復習を兼ねて２人１組のオーバーパス練習。さらには４人１組のオーバーハンドパスとアンダーハンドパスをミックスしたラリーゲームがネットを使用しないで行われました。そしていよいよその後にスパイクを打つ練習に入りました。

スパイク練習は、いきなりバレーボールのネットを使用したスパイクではなく、バドミントンのネットを使ったスパイクの練習から始めました。

これは生徒がスパイクを成功させやすいように、考案した練習方法で、あまり高さを気にせずに、スパイクを打つポイントがしっかりと把握しやすいように考慮した方法です。その後練習が継続され、授業の終盤でどのようにしたらスパイクがうまく打てるのか、バレーボールの学習カードを利用して生徒各自が考える時間に入りました。先生からは学習のまとめとして、スパイクを打つポイントは、腕(肩)の角度、ボールを打つ場所、助走の最後の３歩について説明がありました。

今年のバレーボールの目標はスパイクを打つことです。今までのオーバーハンド･アンダーハンドパスとともに、今日の授業は攻撃の方法を学ぶ授業の始まりでもありました。

第３回学校評議員会

副校長　今本　由美子

２月９日（木)、第３回学校評議員会を行いました。始めに、校長、各学年担当の教員から最近の学校や学年の様子をお話ししました。１年生は最近の様子、２年生は学習・生活面と、スキー移動教室に向けた学年の取組ついて、３年生は、進路決定状況と卒業に向けてお話ししました。

続いて養護教諭から、今年度の健康診断の結果や、保健室来室者数等について説明をしました。健康診断の結果、医療機関への受診を勧めた生徒数は、眼科で３１８名、歯科で１８９名もいましたが、受診率は、眼科で４０％程度、歯科については３０％程度と、なかなか病院に行かない（行けない？）現状が見えました。また、今年度の保健室来室者数に見られる特徴としては、特に１年男子に、ふざけて走り回ったり、友だちと組み合っている際の怪我が非常に多くなっていることが挙げられました。

その後、本年度の学校評価（生徒・保護者・教員）の結果と傾向についてお話をして、評議員の皆さまからご意見をいただきました。意見交換では、ＳＮＳ、保護者・地域に開かれた学校づくり、食育、体験型学習、来年度の教育課程など話題は多岐にわたりました。今年度の学校評議員会は、今回で終了となります。評議員をお務めいただいた皆さま、ご協力ありがとうございました。

平成２８年度スキー移動教室を終えて

第２学年主任　森山　滋

２月１０日から１３日までの３泊４日の日程で、武石スキー移動教室に行ってきました。４日間天候に恵まれ、最高のコンディションで日程を送ることができました。

スキーを経験するのは初めてという生徒が多かったと思います。初日はスキー靴を履くことができず、また履いても歩くことができない生徒が多数いました。しかし、熱心に実習に取り組み、目を見張るほどの上達ぶりでした。最後となった３日目の午後の実習では、その成果を披露するかのごとく、どの班も班毎に隊列を組んで滑ることができました。インストラクターの方も、生徒の上達ぶりを絶賛していました。

スキー移動教室は宿泊行事ですので、宿舎では様々な係が分担され、そして自発的に行動しなければなりません。実行委員会を中心に昨年から準備してきましたが、３泊４日を通して各自がそのことを理解し活動できました。大きな成長を見たスキー教室でした。このスキー教室で培ったことを、次は修学旅行で発揮してくれることと今から期待しています。

２年スキー移動教室生徒作文

女子生徒

２月１０日から３泊４日のスキー移動教室がありました。私はスキーをやっこととがなく、止まり方もよくわかりませんでした。でも最終日には、頂上から滑ってくることができました。インストラクターさんに本当に感謝だなと思いました。こういう体験もできて、人と関わることができて、私は幸せ者なんだなと気づかせてくれるスキー移動教室でした。また部屋では、友達と仲良くなれるかなと不安なところがありました。でもいっしょに生活をしていると、みんな明るくて、それぞれの良いところをたくさんもっているんだなと思いました。外見だけで判断するなとはこのことかと思いました。３泊４日は本当にあっという間でした。でも、みんなを知れる良い機会になりました。

男子生徒

ぼくはスキー移動教室に行くまで、スキーはたった一回しかやったことがなかった。その時もスキー教室として一日だけ基礎から教わっただけで、曲がることすら難しいという状態だった。

スキー実習初日、僕は不安があり緊張していた。しかし、先生が優しく良い人で丁寧に指導してくれたので緊張はすぐにとれた。また、班員もサッカー部がほとんどでとても楽しかった。みんな僕と変わらない実力だったので、練習もやりやすく、誰かが転んでも笑って楽しんだ。そのような感じでスキーの実力も向上していき、パラレルターンもだいたいできていたと思う。スキーが楽しいものと思えるようになったのも成長だと思う。このように、スキー移動教室がとてもいい思い出となり、友達といる時の楽しさやスキーの楽しさなどを改めて感じることができたよいものとなった。来年度の修学旅行もとても楽しみになった。

都立高校入試終わる

２月２４日に都立高校入試が終了しました。５教科（国･数･英･社･理）または３教科（国･数･英）の入学試験です。３年生にとっては試練の日、勝負の時でした。

教員の職についてから、入試の時期になると毎年のように思い出すのが、自分が高校を受験した時です。何と前日に３９度の熱を出し、どうにもならなくなったのです。気持ちが焦りました。たぶん自分以上に親が慌てたと思います。たまたま父親の知り合いにお医者さんがいて、連絡を取ってくれました。診察時間はとっくに終わっていましたが、特別に診てもらいました。今でも覚えていますが、信じられないぐらい太い注射を２本打ってもらいました。「これで熱は下がる。大丈夫。明日は受験できる。」とお医者さんは言ってくれました。しかも注射を打つ際にわざわざ痛みを感じない工夫までしてくれたのです。有り難かったです。熱は３７度５分ぐらいまで一気に下がりました。そして翌日ある程度熱は下がったものの、ふらふらする状態で受験に臨みました。

自分の故郷（北海道）では入試の日程が２日間に分けられ、５教科で実施されていました。どちらの日もその日の最初の教科が熱で、ボーッとするためかふだんの実力はまったく発揮できませんでした。

たった３行程度の問題文を読むのに、もの凄く時間がかかりました。そして気持ちばかりが焦りました。寒さなのか、熱のせいなのか体が震えました。それでも何とか入学試験を受けることができました。入試の点数はそれまでに取ったことのないような悪い点数だった記憶があります。それでも何とか合格することができました。

当時私の故郷では、高校の定員数に対し、中学生の在籍数が絶対的に上回り、社会問題となっていました。私立高校は２校しかなく、市内に数校の道立高校があるだけでした。そのために、毎年のように中学浪人が多数出ていたため、そのことが問題視されていたのです。

さて、この入試後に自分が油断していたこと、入試を甘く考えていたことを後悔しました。しかし、それ以上に人に支えられていることを実感しました。もしあの時に、父親の知り合いに医師がいなかったら、たぶん自分は受験できずに中学浪人していただろう。そう考えると怖くなりました。同時に人の支えの有り難さを強く感じました。このような苦い思い出を毎年、都立高校入試の時期に思い出すのです。

とろで、東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題の出題の基本方針を皆さん知っているでしょうか。あまり聞いたことがないと思いますので紹介したいと思います。

－東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題の出題の基本方針－

１　中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。

２　出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏らないようにする。

３　出題にあたっては、基礎的･基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。

＊都立高校の合格発表日は３月２日(木)です。